

2024 年度前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の水生甲虫の調査及び同定マニュアルの製作

北海道大学総合博物館 昆虫ボランティア水生昆虫グループ 下中淳ノ介

1. 背景

北海道は全国で最も広い湿地面積を有する地域であり、東西南北にそれぞれ特色のある良好な湿地環境が残されている。しかし現在、湿地環境が急速に減少していることが知られており、中でも釧路湿原ではその傾向が顕著である。ラムサール条約に登録され、自然保護が行われている釧路湿原でさえ著しく減少しており、全国各地における湿地環境の減少傾向は明らかである。そうした湿地環境の現状や、そこに生息する生き物について多くの人に知ってもらうため、当グループは昆虫類を題材としたガイドブックの製作を企画・実施した。

様々な環境に生息し、多種多様な生態や形態を持つ昆虫の中でも、生活史の中で水辺を利用する昆虫であるアメンボやトンボのなかまは水生昆虫と呼ばれる。本事業ではその中でもゲンゴロウやガムシといった湿地環境に生息し、硬い鞘翅を持った水生甲虫(コウチュウ)に焦点を当てた。

2. 実施概要

ガイドブック作成にあたって、北海道の湿地でよく見られる水生甲虫の種と掲載内容を選定した。水生甲虫の色や形がわかりやすい全形図を掲載するため、北海道大学総合博物館に所蔵されている昆虫標本を利用し、標本整理と同定、展脚作業を経て全形写真を撮影した。標本庫に良好な状態の標本が収蔵されていない種や掲載予定種の具体的な生息環境の情報、写真を得るために野外調査を実施した。北は稚内市、東は別海町、南は七飯町など、北海道各地の湿地環境を巡り、それぞれの地域に生息する水生甲虫や湿地環境に関する情報を収集した。

論文や北海道大学に所蔵される図書や図鑑を閲覧し、掲載内容の精査や選定を行った。

北海道の水生甲虫 ガイドブック



北海道大学総合博物館 昆虫ボランティア
水生昆虫グループ編

3. 内容

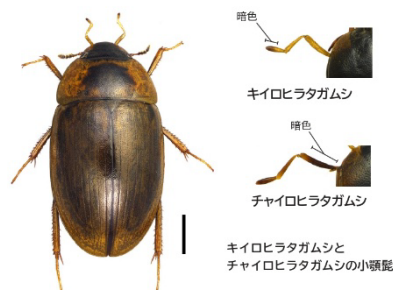
A5 版 50 ページ

北海道に生息し、よく見られる水生甲虫を 40 種紹介している。体長・分布・各種の説明に加え、実際の生息環境の写真や、近縁種との識別に有用な形態的特徴も掲載している。そのほかにコラムやより発展的な書籍の紹介もしている。掲載種については、色や形がより明確に伝わるよう、写真を大きく鮮明に掲載することに努めた。

ガムシ科 Hydrophilidae ヒラタガムシ属 *Enochrus*

キイロヒラタガムシ

Enochrus simulans (Sharp, 1873)



体長：4.9 mm ~ 5.8 mm

分布：北海道・本州・四国・九州・南西諸島（与論島以北）

北海道で最もよく見られる種で、黄褐色の体と上翅の条溝が特徴的。本種によく似たチャイロヒラタガムシも北海道に分布し、こちらは本種より稀な種である。

スケールバー：1.0 mm、標本採集地：厚真町

4. 普及活動

完成した冊子は、道内で自然史展示を行う博物館や関連施設、昆虫学を専門とする大学研究室に配付し、多くの人が閲覧できる環境に配架をしていただいた。一部の市立図書館や学校図書にも配架している。西岡公園や美幌博物館などでは自然観察会や講座でも活用、配布をしていただいた。



最後に、本事業および冊子の作製・出版にご協力いただいた関係者の皆様、ならびに一般財団法人 前田一步園財団に心より感謝申し上げます。今後も湿地環境の保全と環境調査、水生昆虫を中心とした啓発活動を継続する所存である。